

# 自治会報

発行責任者 佐久間 順三

我々は日大民主化のために、ねばり

編集責任者 長谷 渡一

強く団結しよう

7月5日、270人の学生の参加をもって、学生大会が、開催された。日大の民主化に於いて、学生大会の最も重要であったスト権は、賛成1346名をもって確立に至った。しかしここで考えなければならぬのは、反対の票が642票であったことである。執行部としては、学生に対して、情宣紙等で、スト権について発表してきた。しかし、少数の学生の中には、この意義、位置づけに於いて、多少の誤解があった。

6月29日の学生大会に於いて、スト権の動議が出された。この時々に於いては、多くの学生に対し、はっきりした位置づけが、なされなかった状況にあった。多くのクラスにおいてスト決議は、全学生による、直接投票にしろという決議がなされた。このことについては、執行部の見解が、正しく理解できていなかったと想う。日大の民主化斗争に勝利するためには、意見の不統一があっては行けない。そのために、各クラスの意見統一、また理工学部としての統一と、団結が是れも必要である。今必要なことは、全日的団結の力、徹底的に、クラス討論を行い、ストに対して十分な位置づけをしなければならない。今ストに突入している他学部に対し我々のストの力をもってこの闘争を、推し進めなければ、完全な勝利は得られない。

7月8日に自治会主催の、教授との公開討論に於いて、理工学部教授会の改革案に対して我々学生は、今の客観的現状に於いて、批判的な目をもって対処しなければならない。この時々に、我々はもっと考えよう。我々は、基本的には、基本的には、連帯を断ち、民主化してゆかねばならないが教授会が学生の前に、今までも行ってきた行為について自己批判しないかぎり共闘は、できないことを、再確認しよう。

我々の最大の壁である、長い、厚い、夏期休暇を我々は、ストライキをもって乗り切らねばならない。前に書いたとうり、ストライキの意義は、学校側から一切を断ち切った時々に、真の学問を見出し、真理の探求を、我々の意志の反映された自主カリキュラムを確立し、その中で、見い出さねばならない。教授会の欺瞞的改革案を出し、学生のもりあがり、内部から崩壊させようとしている。我々は、夏休みを、我々の力をもってストを固執し、真の自治を確立してゆかねばならない。理工学部の占める位置づけは、今までの日大方針に対する不満の典型的見われであるところの民主化斗争は、今後の日大を形成するうえで、重要な契機となることである。我々は、確実である。多数の学生によって支持された、現執行部を、理工学部全学生の団結の力で統一して真の日大民主化を勝ちとるべきである。

## スト権確立す！！

## 理工学部習志野校舎 スト突入！！

投票総数	2081票
賛成	1346票
反対	642票
棄権	31票
無効	12票

日本大学理工学部一部自治会